

本會創立以來茲に六十年其間劇争と屈辱とを以つてし日よ之れ口うた、有株であった幾度か全国大會の開催を企図するも遂にその志向を果すの日なくして今日に至つたのである。今日横大からすれば、全国委員会の開催を見たりは、嚴肅なる階級対立の鉦山地帯に、鉄火の洗礼を要り苦闘の体験を有するもの、味の味いするまに在りである。

今回の全国委員会は本會の創立大會と異なり、重大なる下史的意義を有する會合である。この重要なる意義を有する委員會有る機会に於て四十万の鉦山労働者に階級的進路を暗示するに、我等の所信を宣明するは、吾等の爲と收はならず、義務である。と信ずる。

古きもの水漬は、新らしいものも力ある、哲人は今日鉦山労働者諸君、躊躇するに比し、最大の労働團體たる我が